

2017年度第5回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 南武特別

南武（なんぶ）は、武蔵国の南部の意。JR 南武線の名称の由来となっている。南武線府中本町駅は、東京競馬場の最寄り駅としても利用されている。

○ ノベンステークス

ノベンス（November）は、11月を意味する英語。ラテン語で「9」を意味する「Novem」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において9番目の月という意。

○ 京王杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、昭和40年に『京成杯3歳ステークス』として創設された重賞競走。当初は中山競馬場の1200mで行われていたが、55年に東京競馬場の1400mに変更された。また、59年のグレード制施行によりGⅡに格付けされ、平成10年に『京王杯3歳ステークス』に改称された後、13年の馬齢表示の国際基準化に伴い、『京王杯2歳ステークス』となった。

京王電鉄は、東京都多摩市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 百日草特別

百日草（ひゃくにちそう）は、キク科の植物。別名はジニア（Zinnia）。メキシコが原産で、日本には、江戸時代の末期に渡来したとされる。花色は紅・紫・白・黄など多彩。開花時期が初夏から晩秋までと長いことからこの名が付いたと言われている。花言葉は「幸福」「絆」。

○ 晩秋ステークス

晩秋（ばんしゅう）は、秋の終わりのこと。また、陰暦9月の異称。「晩秋の候」など時候の挨拶にも用いられる。

○ アルゼンチン共和国杯（GⅡ）

本競走は、昭和 38 年に日本とアルゼンチンの友好と親善の一環として、アルゼンチン・ジョッキークラブから優勝カップの寄贈を受け、『アルゼンチンジョッキークラブカップ競走』として創設された重賞競走。49 年にアルゼンチンの競馬がジョッキークラブから国の管轄に移管されたことに伴い、その翌年から現在の名称となった。創設時は 4 歳以上 2300 m の別定重量戦であったが、幾度かの条件変更を経て、3 歳以上 2500m のハンデキャップ競走となった。

<第 3 日>

○ オキザリス賞

オキザリス (Oxalis) は、カタバミ属の球根類の総称。南アフリカや熱帯アメリカが原産。日本には、江戸時代に渡来したとされる。花色は種によって桃・白・黄など多彩で、光に反応して花が開き、暗くなると閉じるという特徴を持つ。花言葉は「喜び」「母親の優しさ」。

○ 三鷹特別

三鷹 (みたか) は、東京都中部にある市。市名は、かつての鷹場であった野方領、世田谷領、府中領の三領にまたがる村々が集まったことに由来するとされている。国立天文台や井の頭恩賜公園があり、同公園内の三鷹の森ジブリ美術館は観光スポットとして多くの人で賑わっている。

○ 東京中日スポーツ杯武蔵野ステークス（GⅢ）

本競走は、平成 8 年に創設されたダート重賞競走。当初は春季の 2100m で行われていたが、ダート競走体系の整備に伴い、秋季の 1600m に変更となった。なお、第 1 着馬には同年のチャンピオンズカップへの優先出走権が与えられる。

武蔵野 (むさしの) は、東京都と埼玉県にまたがっている洪積台地。また、東京都中部の市。

東京中日スポーツは、中日新聞社東京本社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 4 日>

○ t v k 賞

tvk は、横浜市に本社を置くテレビ神奈川の略称。昭和 47 年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 奥多摩ステークス

奥多摩（おくたま）は、東京都西多摩郡にある町名およびその周辺部の山城。御岳山や雲取山、関東最大級の規模を誇る日原鍾乳洞などの観光スポットが有名。

○ オーロカップ

本競走は、盛岡競馬場と東京競馬場の姉妹提携を記念するとともに、地方競馬と中央競馬の友好と親善を図ることを目的として平成 8 年に創設された競走。盛岡競馬場では交換競走として、『東京カップけやき賞』が実施されている。同競馬場のある岩手県は、「南部曲り家」、「チャグチャグ馬コ」等に象徴されるように、古くから馬事文化が根付いている。

オーロ（oro）は、「黄金」を意味するラテン語。また、同競馬場の呼称である「オーロパーク」を指す。

<第 5 日>

○ 秋陽ジャンプステークス

秋陽（しゅうよう）は、秋の陽射しのこと。絵画、写真などの芸術や短歌、俳句などの文学において、秋陽をテーマとした多くの作品を見ることができる。

○ 伊勢佐木特別

伊勢佐木（いせざき）は、横浜市中区の地名および商店街。明治時代以来、横浜を代表する繁華街として発展してきた。

なお、イセザキモール街の中には JRA の場外勝馬投票券発売所であるエクセル伊勢佐木がある。

○ ユートピアステークス

ユートピア（Utopia）は、「空想上の理想的な社会」「理想郷」を意味する英語。ギリシャ語の「どこにもない（ou）場所（topos）」、「良い（eu）場所（topos）」に由来するとされている。

○ 東京スポーツ杯 2 歳ステークス（GⅢ）

本競走は、『東京 3 歳ステークス』を前身とする重賞競走。昭和 43 年より『府中 3 歳ステークス』と名称が改められ、59 年には距離が 1800m となった。平成 8 年に重賞競走に格上げされた後、9 年に『東京スポーツ杯 3 歳ステークス』と名称が変更され、13 年から現在の競走名となった。

東京スポーツ新聞社は、東京都江東区に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 赤松賞

赤松（あかまつ）は、マツ科の常緑針葉樹。赤褐色の樹皮が特徴。全国の山野、特に内陸部に広く分布しており、防風林として植林されるほか、庭木としても栽培される。黒松が「雄松（おまつ）」とよばれるのに対し、赤松は「雌松（めまつ）」とよばれる。

○ 錦秋ステークス

錦秋（きんしゅう）は、紅葉が錦の絵柄のように色鮮やかな秋の様子を表現した言葉。

○ 日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 霜月ステークス

本競走は、日本とデンマークとの外交関係樹立150周年を記念して実施される。

霜月（しもつき）は、陰暦11月の異称。霜が降りる月のため「霜降月（しもふりつき）」と呼ばれていたものが、のちに省略され「霜月」となった。

<第7日>

○ カトリア賞

カトリア(Cattleya)は、中南米原産のラン科の洋ランの一種。40種ほどの原種から多くの改良種がつくられ、ランの女王ともよばれている。花色はピンク、赤、黄、白、淡紫など多彩。花言葉は「優雅な女性」「魔力」。

なお、本競走は、日本馬を対象とした『ケンタッキーダービー（G1）』出走馬選定ポイントシリーズ「JAPAN ROAD TO THE KENTUCKY DERBY」の対象レースとなっている。

○ 銀嶺ステークス

銀嶺（ぎんれい）は、雪が降り積もって銀色に輝く山のこと。

○ キャピタルステークス

キャピタル（Capital）は、「首府」「首都」「（中央官庁のある）都市」を意味する英語。

<第8日>

○ ベゴニア賞

ベゴニア（Begonia）は、シュウカイドウ科ベゴニア属の植物の総称。原種は熱帯・亜熱帯に分布し、その数は2000種余と言われている。葉は左右不相称で、色彩・模様・形状など変化に富み、花色も淡紅色・白・黄・赤・紫など多彩。花言葉は「愛の告白」「片思い」。

○ オリエンタル賞

オリエンタル (Oriental) は、「東洋的」「東洋風」を意味する英語。また、「(宝石が) 上質の、光沢が美しい」という意味もある。

○ シャングリラ賞

シャングリラ (Shangri-La) は、「理想郷」を意味する英語。名は、イギリスの作家ジェームス・ヒルトン (James Hilton) の小説『失われた地平線』の中に登場する理想郷に由来する。中国の桃源郷伝説と結びつけて語られることが多い。

○ ウェルカムステークス

ウェルカム (Welcome) は、「歓迎」を意味する英語。ジャパンカップに出走する外国馬やその関係者に対しての歓迎の意味が込められている。

○ ジャパン・オータムインターナショナル ロンジン賞 ジャパンカップ (G I)

本競走は、「世界に通用する強い馬づくり」を目指すべく、昭和 56 年に創設された重賞競走。初年度はアメリカ・カナダ・インド・トルコ (招待馬デルシムは来日後故障のため不参加) の 4 ヶ国から合計 8 頭を招待して実施された。57 年にはヨーロッパとオセアニア地区、58 年には地方競馬の代表馬も招待の対象となった。また、平成 20 年に創設された秋季国際 G I 競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』にも指定されている。

なお、本競走は、スイスに本拠を置く時計・宝飾の製造、販売会社であるロンジン社から協賛を受けて実施されている。